

20018

高度腎機能障害を有する末梢動脈疾患患者に対し EVT を行う際の工夫

**【目的】**高度腎機能障害を有する末梢動脈疾患患者に対し EVT を行う際、造影剤腎症による腎機能悪化のリスクのため治療を躊躇することがある。しかし近年では、炭酸ガスを用いた治療法の確立や検査機器の進化により造影剤を使用せずに治療を完遂できる症例が多く存在し、さらには膝下病変に対する EVT についても極少量の造影剤で治療が可能となった。今回、高度腎機能障害を有する腸骨大腿から膝下病変までの CLI 患者に対して極少量の造影剤で EVT を行い治療に成功した症例を提示するとともに当院での造影剤削減に向けての取り組みについて報告する。**【方法・結果】**血管 X 線撮影装置 (GE 社製) を使用し腸骨大腿領域では炭酸ガスのみで EVT を行い、膝下領域に対しては炭酸ガスと少量の造影剤を tip injection し作成したロードマップを用いて EVT を行った。本症例で使用した総造影剤量は 15ml であった。**【考察】**膝下領域の EVT でもロードマップ機能を上手く活用すれば極少量の造影剤で治療が可能な場合がある。今後さらにロードマップの質を向上させるため、適度な鎮静度を維持することや患肢固定器具が有効と考えられた。